

## 鳥取県における多重がん増加に関する疫学的研究

—登録方法と進展度から—

岡本 幹三\* 黒沢 洋一 尾崎 米厚 岸本 拓治

## 1. はじめに

今や多重がんの時代といわれて久しい。鳥取県においても年々多重がん登録がふえていることが観察されている。その背景として診断技術の進歩と予後の改善はもとより、早期がんの登録や死亡票からの登録(DCN)増加が関与していることが推察される。その実態を把握するため、今回は登録方法と進展度から多重がんの発生頻度の増加の実際と問題点について検討したので報告する。

## 2. 方法

資料には1989年-2007年診断の鳥取県がん登録データを利用した。多重がんの判定はIARC/IACR(1994年)の定義に準拠して行った。登録方法は、医療機関からの届出票によるものと死亡票からはじめて登録されるもの2区分に分けて、進展度は①上皮内、②限局、③所属リンパ節転移、④隣接臓器浸潤、⑤遠隔転移の5区分に分けて多重がんの有無について集計解析した。

## 3. 結果

1989年から2007年診断のがん登録数は59,030件(男性34,038、女性24,989、不明3)で、そのうち多重がんは4,871件で8.3%であった。年次推移による多重がん発生頻度は、1989年から1996年にかけて

漸減、それ以降は増加の一途を辿っている。この傾向は登録方法別にみてもほぼ同様の傾向が観察されたが、とくに届出票(10%前後)に比べて死亡票で近年増加傾向

表1 標準集計データの年次推移

診断年	登録件数	登録方法		DCN (%)
		届出票	死亡票	
1989	2,474	1,764	710	28.7
1990	2,548	1,734	814	31.9
1991	2,703	1,924	779	28.8
1992	2,831	1,997	834	29.5
1993	2,826	1,989	837	29.6
1994	2,632	1,943	689	26.2
1995	2,493	1,904	589	23.6
1996	2,599	1,964	635	24.4
1997	2,875	1,959	916	31.9
1998	2,772	1,759	1,013	36.5
1999	3,045	1,942	1,103	36.2
2000	3,039	1,935	1,104	36.3
2001	3,099	2,080	1,019	32.9
2002	3,286	2,429	857	26.1
2003	3,559	2,586	973	27.3
2004	3,755	2,855	900	24.0
2005	3,876	3,138	738	19.0
2006	4,198	3,438	760	18.1
2007	4,420	3,770	650	14.7
合計	59,030	43,110	15,920	27.0

\*鳥取大学 医学部 社会医学講座 健康政策医学分野  
〒683-8503 鳥取県米子市西町86番地

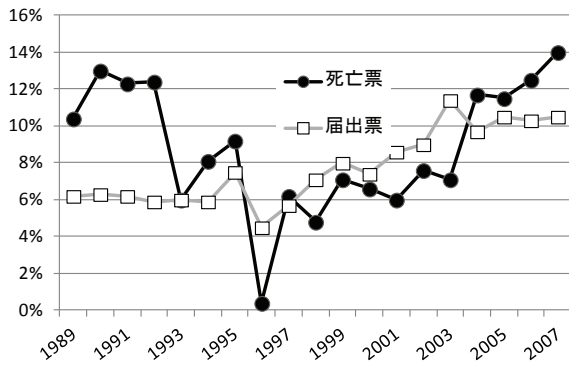


図1 登録方法別多重がん採択率の年次推移

(12-14%) が認められた。死亡票による多重がんの採択率は、第2がんでは平均26.4%、第3がんでは平均42.5%、第4がんでは60%と増加し、全体では平均27.5%であった。部位別には、第2がんでは脳など、白血病、リンパ組織、膵臓、胆嚢・胆管、肺、肝臓など第1がんのDCNが40%

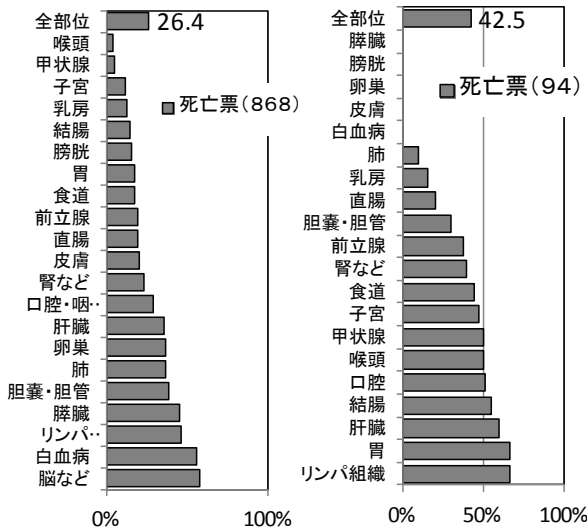


図3 第2がんにおける死亡票による多重がん採択率比較

図4 第3がんにおける死亡票による多重がん採択率の比較

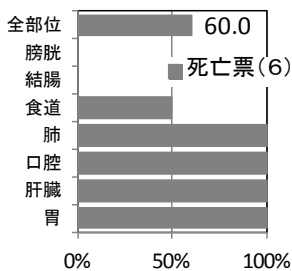


図5 第4がんにおける死亡票による多重がん採択率の比較

以上の部位で死亡票による多重がん採択率は高値を示した。

進展度については、2002年から2007年診断の15,405件のうち初発がんの13,813件における進展度分布の推移を比較してみたが、上皮内、限局部位など早期がんの割合に有意な増加は認められなかった。

4. 考察

近年多重がん発生頻度は増加傾向にあることがわかった。この傾向は登録方法別にみてもほぼ同様であったが、とくに死亡票による判定で届出票に比べてより高くなる傾向を認めた。

第2がんの多重がん判定では、死亡票からの採択率は第1がんの部位別DCNに比例して高くなった。しかし、届出票による上皮内、限局部位など早期がんの届出が多重がんの増加につながる結果は認められなかった。

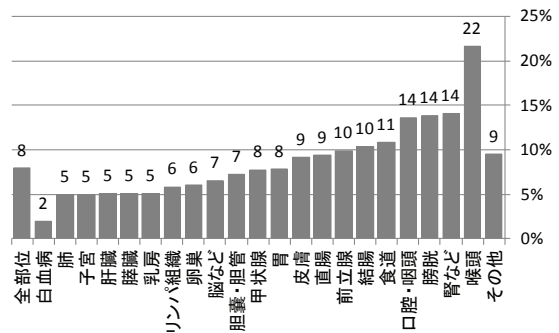


図6 第1がんの部位別多重がん発生率 (第1がんDCNは除外、乳房・子宮は上皮内がんも含む)

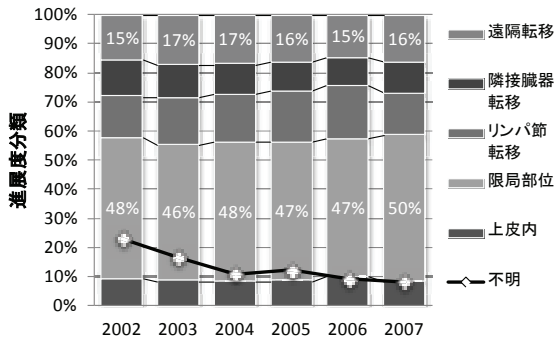


図7 初発がんにおける進展度分布の年次推移

その他、治療方法による影響も強く関与していると考えられるので、今後の課題として検討していきたい。

## 5. 参考文献

1. 岡本幹三、鈴木康江、西田道弘、尾崎米厚、岸本拓治：鳥取県における多重がんの発生要因に関する研究. 米子医学雑誌、59 (3) : 78-80、2008